

共に創る図書館

～館長対談シリーズ⑧～

河野歯学部長との対談

吉本 本日は、歯学部長の河野先生からお話をお伺いします。よろしくお願いします。館内をご覧いただいた印象はいかがでしょう。

河野 すごくきれいになっていますし、学生の利用を考えて配置され、ICTシステムも導入されているという印象を受けました。

吉本 河野先生は徳島大学歯学部の一期末生とのことですが、歯学部へ進まれたきっかけをお話いただいてもよろしいでしょうか。



徳島大学「歯学部一期末生」

河野 親類に歯科医師がいたことや、祖父が私を歯科医師にしたいという希望もあり、長男ですので徳島で居てもいいかと考えていたときに、ちょうど徳島大学に歯学部ができるということで受験しました。入試は800人以上が受験し、60人の合格者という競争率でした。歯学部一期末生ということで先輩もいませんでしたが、若い兄のような先生方と一緒に和気あいあいとした雰囲気でした。勉強は、先輩がいないため試験の過去問などもありませんので自分たちでひたすら教科書とノートで勉強していました。また、歯学部のクラブもありませんでしたので医学部のクラブと一緒にに入れていただき、私も柔道部に入っていました。そのおかげで人的つながりもできて良かったと思います。

吉本 学生時代や教員になられてからの図書館に対する思い出等はございますか。

河野 学生の時はあまり図書館を利用していませんでしたが、大学院生になってからはよく蔵本分館の書庫に籠り、「歯科学報」や「日大歯学」等の古い大学の学内誌に付箋をいっぱい貼って研究室へ借りて帰っていました。文献データベースは当時は無かったので、冊子体で刊行される医学中央雑誌等からも文献を探していましたが、冊子体はデータベースと違って、目次から色々な興味があるものを見つけることができるといういい面もありますね。

吉本 大学院では歯科補綴学を選ばれたのはどのような理由でしょうか。

河野 これからは高齢化社会へ向かうことから補綴の技術が必要になってるだろうということもあり、入れ歯、特に総入れ歯は難しいという感想を持っていましたので補綴へ進みました。大学院も一期末生でしたので、4月に歯科医師の国家試験を受け、その後に通常とは遅れて入学試験が行われました。

大学院では総入れ歯の配列位置についての研究を行っており、圧力センサーを入れ歯の中に埋め込んで患者さんに噛んでいただいてどのくらい歯茎に力加わるか計測し、一番歯並びが良い位置はどこかということ調べていました。当時は圧力センサーを使ったことのある人が歯学部の中にいなかったため、工学部へ教えてもらいに行ったり、本を読んだり、メーカーに尋ねたりしていましたが、装置も自分でハンダ付けをして作ったりしました。コンピュータを使って計測しますので、コンピュータのソフトも自分で作っていましたが、毎朝毎朝コンピュータの前へ座って、本当によく勉強していたと思います。

ミシガン大学への留学

吉本 留学されていた時も歯科補綴学の同じ領域の研究をされていたのでしょうか。

河野 留学の時は歯科材料学の研究を行っていました。最初に3つの大学の有名な先生へ英語で手紙を書いたところ、ミシガン大学で受入が決定し、ミシガン大学の歯科補綴学の先生から歯科材料学の先生を紹介していただき、そちらへ研修として行かせていただきました。ちょうど私の母校の徳島市立高校のある徳島市がミシガン州サギノー市の姉妹都市であるという縁もありました。オフの時間には車で1年間に3万キロくらい走り、楽しい思い出となりました。



歯学部長 河野 文昭

吉本 ミシガン大学の図書館はいかがだったでしょうか。

河野 ミシガン大学は非常に古い大学ですので1800年代の古い本もあり、そのような本を読む時は破れないようにページをゆっくりめくりました。日本からの資料も置いていましたし、特に歯学部の近くにあった法学部の図書館は非常に広くて映画に出てくるような図書館でした。ミシガン大学の図書館は24時間開館しており、コンピュータの各ソフトウェアマニュアルも図書館にあったので借りに行っていました。夜は学生ボランティアで運営されていましたね。

歯学部創立40周年

吉本 歯学部は今年40周年を迎えましたが、図書館の蔵本分館も歯学部が設置されたのを機に南側に増築されました。当時の蔵本キャンパスはどのような様子だったでしょうか。

河野 昭和51年10月に歯学部が設置され、私は52年4月に入学しましたが、当時はまだ歯学部の建物が建設途中でしたので、蔵本会館の中に教室がありました。当時は今の薬学部と大塚講堂の建物が建っている間に川が流れていましたし、キャンパス内に兵舎が残っていて、学生食堂や道場、学生寮等は一番南側の塀の近くにありました。歯学部の建物がある場所は、昔は木がいっぱい森のように茂っていて憩いの場所になっていました。現在は図書館が、医学部、歯学部、薬学部の3学部の中心に位置していて非常に使いやすいですね。雨の日も歯学部からすぐ行くことができます。



附属図書館長 吉本 勝彦

吉本 歯学部の学生は非常に図書館をよく使っています。以前は歯学部内に自習室が無かったこともありますが、現在のように自習室が整備された後もよく利用されているようです。図書館側も利用している学生や教員に直接意見を聞いて資料配置を工夫したり図書館へ足を運んでくれる企画を考えたりしています。

河野 最近は図書館で色々な企画をされているので、学生も来やすいのではないかと思います。先ほど「授業サポートナビ」コーナーを案内していただきましたが、科目別に資料を並べていると使いやすいですね。私の授業でもスモールディスカッションを行っていますので、そのような時にもすぐ使えそうです。

歯学部の学習環境・研究環境

吉本 歯学部における学習環境、研究環境はいかがでしょうか。

河野 学習環境については、歯学部内に自習室やグループ討議のための談話室を数年前に設けましたが、国試もありますので非常によく利用されています。歯科のスキルラボもできて学生の実習に役立っていますので、歯学部の学生の学習・教育環境としてはこの10数年で各段に良くなったと感じています。

研究環境という点で難しく、校舎も古くなりますし、新しい研究機材を購入する予算も厳しいので少し滞っていますが、皆さん工夫しながら研究しているという状況です。来年からは建物改修が始まりますので少しは研究環境も良くなるのではないかと思います。

歯学部地域連携・社会貢献

吉本 地域連携や社会貢献についてはいかがでしょうか。

河野 徳島県歯科医師会との連携もあり、後期高齢者の口腔健診の共同健診や、高知県との災害時の連携、口腔健診に基づく施策のためのデータ作り、社会福祉の面での鳴門市との連携や三好市の診療所歯科検診、徳島県立中央病院との口腔ケアでの連携や、徳島大学病院内では妊婦さんへの指導等も行っています。



成書をきちんと読む

吉本 図書館の学習支援についてお伺いします。歯学科の一部の科目における実習や口腔保健学科の卒論開始時の実習では図書館職員および教員による文献検索の講習会を取り入れています。文献検索の講習は一回やったら終わりではなく、それぞれの段階別に継続して行うことが大切だと思いますが、どのようにお考えでしょうか。

河野 歯科のコアカリキュラムの中に準備教育というのがあり、その中に情報リテラシーがあります。歯学部は1年の時に医療情報処理という科目を設けていて、ExcelやPowerPoint等の実習を行っています。来年度からは情報のカリキュラムを変更する予定ですので、情報センターの教員中心の授業の中に図書館による海外論文などの文献検索やセキュリティについての説明を行っていただけたらいいですね。

それから最近の学生は本を買うことが少ないので、できるだけ成書を読んでほしいと思います。ネット検索だけでは間違った情報もたくさん含んでいますし、歯科診療に関わるようになると忙しくなりますので、そのためにも図書館で学生のうちに本を読む習慣をつけるよう、成書をきちんと読むということを指導していただきたいと思っています。

吉本 専門書だけでなく一般書も読むという読書習慣も身に付けておくことが大切ですね。ところで最近図書館では電子書籍を少しずつ導入していますが、電子書籍についてどのようにお考えですか。

河野 最近私もある電子書籍リーダーを購入しましたが、電子書籍は非常に使いにくい、本の種類が少ないという印象があります。将来は電子化の方向になるのでしょうか、新しい本もすぐ古くなりますよね。

吉本 留学生用の英語の書籍についても今後充実を図る必要があると考えています。また先日出版された齋藤孝さんの「新聞力：できる人はこう読んでいる」（筑摩書房）によると、1日分の新聞は新書2冊分くらいの情報量に相当するそうです。図書館には各種新聞を揃えていますので、学生にも毎日目を通してほしいですね。

電子ジャーナルの整備

吉本 電子ジャーナル等の整備についてお伺いします。大学の予算縮減及び電子ジャーナルの高騰等によって現状維持が困難な状況で、今後一部のパッケージの契約中止を検討せざるを得ない状況ですが、どのようにお考えでしょうか。

河野 大学ですのでやはり最低限必要なものは大学中央の経費でなんとか支えていただきたいと思います。それ以外はやはり受益者負担もやむを得ないと思います。現在の学術誌は大手出版社に独占されている状況ですので、出版社に頼らない学術誌の刊行を検討する必要があるかもしれません。そういう意味でもオープンアクセス推進が大切ですね。

オープンアクセスは慣れてきたら違和感なく当然のこととなります

吉本 昨年度定めた「徳島大学におけるオープンアクセスに関する方針」を浸透するために、今年は各学部の教授会等へ説明に回りましたが、実行に移していただくという段階にはまだまだですので、ぜひ歯学部でもご協力をお願いします。また文献データベース Scopus では著者識別機能が充実しているようですので、この機能を利用した各教員へのアプローチも検討しているところです。

河野 歯学部の博士論文で全文公表可能なものは100%徳島大学機関リポジトリに入れてオープンアクセス化されています。一般的な雑誌論文等についても登録作業に慣れることが大切で、慣れてきたら違和感なく当然のこととして行えると思います。

アカデミックライティング

吉本 歯学部では教養教育院の協力を得てSIH道場で「アカデミックライティング」の授業を行っていますが、他大学ではライティングセンターを設置して文章を書く指導を行っているところもあり、全国的に充実を図る傾向にあります。文章を論理的に書く技術、英語論文を書く技術ということについてどのようにお考えでしょうか。

河野 私の場合は学位論文を書く時にかなり直されましたし、英語の論文を書く時にも指導を受けましたが、今はそのような機会が少ないですね。アカデミックライティングについては、場所は図書館で提供することができと思いますが、指導は図書館の職員ではできませんよね。

吉本 指導については教員や大学院生のティーチングアシスタント等が必要になってきます。特に論文作成指導は大学院の共通科目において演習の形でできるといいと思います。

河野 論文指導は在学中ずっと積み上げて続けていけるという環境が必要ですね。ステップとして論文の書き方、考え方、まとめ方とかをどこかの段階では指導する必要があると思います。また、英語論文指導となりますとやはり外国人教員が必要となりますね。

吉本 アクティブラーニングについてはいかがでしょうか。

河野 歯学部の授業ではかなりアクティブラーニングを取り入れています。アクティブラーニングのためには論文検索等により色々調べることが必要になりますので、図書館が命綱になると思います。

図書館に対するニーズ

吉本 その他に歯学科、口腔保健学科からの図書館に対するニーズはありますか。開館時間延長とか空調等の環境面での要望もあると思いますが。

河野 開館時間等の希望もあると思いますが、医学や歯学の専門書は1年経つと内容が古くなりますので、年間の限られた予算内では難しいと思いますが、できるだけ新しい本を揃えていただけるとありがたいですね。

吉本 今後とも利用者の要望に応えられるよう取り組みたいと思います。本日はありがとうございました。

